

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和7年度）

1 支援の内容及び効果等

【評価項目】「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・年度始めに各地域の現状と課題を区と整理し、効果的な支援へ繋げていた。 ・新たな担い手発掘等に繋げるため、他区・本部との連携を密に取りながら、鶴見区地域活動研究会（ツルラボ）等を実施し、地域活動に関心のある人と地域を繋げられるよう努めた。 ・SNSによる情報発信を積極的行ったことで、フォロワー数が増加するとともに、SNSの記事から事業への参加者獲得に繋げることができた。 ・概ね地域活動協議会の運営方法などが改善されている。引き続き地域実情に応じた支援が必要な地域があるが、改善に向け継続的に支援している。

【評価項目】「事業の実施体制等」

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況

評価	左記の理由
B	・区との定期的なミーティングにおいて、情報・課題の共有が図れている。 ・計画の設定や地域の情報共有の場にスーパーバイザーが入り、全体を俯瞰しアドバイスなどを行っていた。 ・地域との連携で課題が生じた支援員をアドバイザーや他の支援員が適切にフォローしていた。

2 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

【評価項目】アンケート調査

評価	左記の理由
A	・地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」（目標値 85%）が 93.5%であり、昨年度実績の 76.1%と比較すると 17.4%増加しており、目標に達している。

3 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	・概ね地域活動協議会の運営方法などが改善されており、引き続き地域実情に応じた支援が必要な地域についても、改善に向け継続的に支援している。 ・新たな担い手発掘等に繋げるため、他区・本部との連携を密に取りながら、鶴見区地域活動研究会（ソルラボ）等を実施し、地域活動に関心のある人と地域を繋げられるよう努めた。 ・SNSによる情報発信を積極的に行ったことで、フォロワー数が増加するとともに、SNSの記事から事業への参加者獲得に繋げることができた。 ・必要に応じスーパーバイザーが全体を俯瞰してアドバイスを رفتたり、地域との連携で課題が生じた支援員をアドバイザー等が適切にフォローしていたりと適切なバックアップを行っていた。 ・地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」（目標値 85%）が 93.5%であり、目標に達している。 ・「取組状態・自律度の状況把握シート【鶴見区】」における基本的事項の総合点からも、各地域活動協議会やその構成団体の自律化が進んでいると考えられる。今後は発展的事項のさらなる向上を図るため、地域の現状を分析したうえで、より高度な支援を期待したい。 ・上記を総合的に判断した結果、評価はBとする。

（評価基準）

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。